

製品名: TGFb1 マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM81149**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	IHC,ELISA,FC
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05%アジ化ナトリウムを含む PBS 中の精製抗体
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	IHC 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:200-1:400
分子量	44.3kDa

抗原情報

遺伝子名	TGFb1
別名	CED; LAP; DPD1; TGFB; TGFbeta
遺伝子 ID	7040.0
SwissProt ID	P01137
免疫原	大腸菌で発現したヒト TGFb1 (AA: 62-195) の精製された組み換え断片。

背景

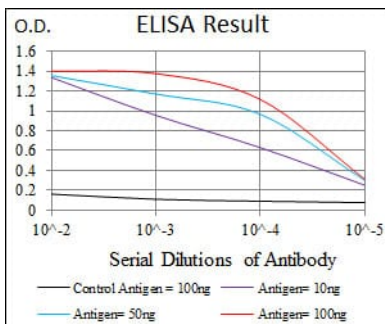
この遺伝子は、多くの細胞種において増殖、分化、接着、遊走、その他の機能を制御する多機能ペプチドであるサイトカインであるトランスフォーミング成長因子ベータ（TGFB）ファミリーのメンバーをコードしています。多くの細胞は TGFB 受容体を有してお

り、このタンパク質は他の多くの成長因子を正または負に制御します。分泌されたタンパク質は、潜伏期関連ペプチド (LAP) と成熟 TGFβ1 ペプチドに切断され、TGFβ1 ホモ二量体、LAP ホモ二量体、および潜伏期 TGFβ1 結合タンパク質からなる潜伏型、または TGFβ1 ホモ二量体からなる活性型のいずれかで存在します。成熟ペプチドは、他の TGFβ ファミリーメンバーとヘテロ二量体を形成することもあります。この遺伝子は腫瘍細胞で頻繁に発現上昇し、この遺伝子の変異はカムラティ・エンゲルマン病を引き起こします。

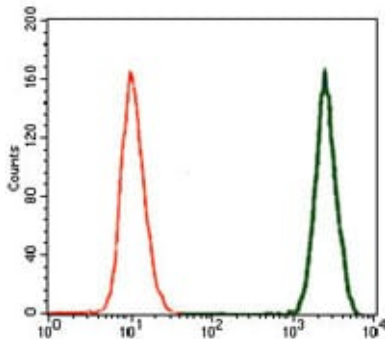
研究分野

TGF-β シグナル伝達経路、MAPK シグナル伝達経路

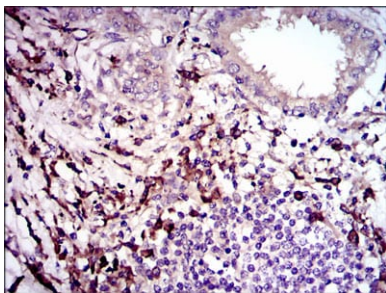
画像データ



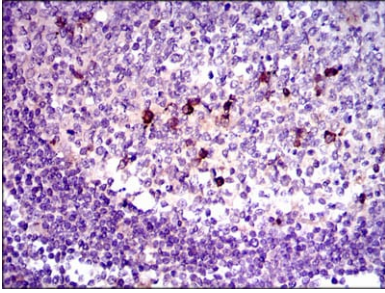
黒線: コントロール抗原 (100 ng); 紫線: 抗原 (10 ng); 青線: 抗原 (50 ng); 赤線: 抗原 (100 ng);



TGFβ1 マウス mAb (緑) とネガティブ コントロール (赤) を使用した A549 細胞のフローサイトメトリー分析。



TGFβ1 マウス mAb と DAB 染色を使用したパラフィン包埋ヒト肺癌組織の免疫組織化学分析。



TGFb1 マウス mAb と DAB 染色を使用したパラフィン包埋ヒトリンパ組織の免疫組織化学分析。